

稲・大豆作情報 (NO. 9)

1. 水稲作況情報田の生育概況(8月26日現在)

品 種 場 所	移植日 栽植株数	年 次	現在の生育状況				概況
			草 丈 cm	茎 数 本/m ²	主稈 出葉数	葉色 SPAD	
夢しずく 佐賀市本庄町	6/17 18.0株/m ²	本 年 平 年 平年比			出穂期 8月15日 (平年より1日早い)		気温は平年並みとなったが、今週も平年より寡照で経過した。草丈は「ヒヨクモチ」でやや高い。茎数は「さがびより」でやや多い。葉齢は「さがびより」でやや少ないが止葉葉位に達している。葉色は「さがびより」「ヒヨクモチ」ともが平年よりやや濃い。
さがびより 小城市芦刈町	6/21 18.5株/m ²	本 年 平 年 平年比	91.4 95.3 (96)	426 406 (105)	14.7 15.1 (-0.4)	37.5 33.2 (+4.3)	
ヒヨクモチ 小城市牛津町	6/29 19.3株/m ²	本 年 平 年 平年比	79.1 75.8 (104)	521 533 (98)	15.4 15.5 (-0.1)	41.7 39.6 (+2.1)	

注1) 各品種 前作: 麦

注2) 施肥及び病虫害防除は地区基準に準ずる。

〈参考〉佐賀県農業試験研究センター 米づくり情報(抜粋)(8月27日調査)

品 種 場 所	移植日 栽植株数	年 次	現在の生育状況				概況
			草 丈 cm	茎 数 本/m ²	主稈 出葉数	葉色 SPAD	
夢しずく	6/18 19.6株/m ²	本 年 平 年 平年比			出穂期 8月17日 (平年より1日早い)		【草丈】 「さがびより」はやや低い。「ヒヨクモチ」はやや高い。
ヒノヒカリ	6/18 22.2株/m ²	本 年 平 年 平年比			出穂期 8/28の見込み 出穂期: 8月27日 ※8/27 有効茎の38%が出穂		【茎数】 「さがびより」は多い。「ヒヨクモチ」はやや少ない。 【葉齢】 「さがびより」は遅れているが、止葉葉位に達している。「ヒヨクモチ」はやや遅れている。
さがびより	6/21 16.7株/m ²	本 年 平 年 平年比	91.8 93.4 (98)	490 435 (113)	14.3 (止葉葉位) 15.2 (-0.9)	36.6 33.9 (+2.7)	【葉色】 「さがびより」「ヒヨクモチ」ともに濃い。
ヒヨクモチ	6/21 22.2株/m ²	本 年 平 年 平年比	81.7 79.1 (103)	510 536 (95)	15.1 15.8 (-0.7)	38.6 35.9 (+2.7)	

2. 水稲管理

不安定な天気が続いているが、生育ステージは早生種が登熟期、中晩生種は穂孕み期～出穂期を迎えている。収量・品質に影響を及ぼす時期でもあり、水管理・穂肥・病害虫防除を適正に行う。

○水管理

- ・全品種、水分ストレスに敏感な時期となっているため、強い水分ストレスを与えないよう間断灌水を励行し、湿潤（黒乾）状態を保つ。

※中干しで地固めした田面が長雨で再軟化している圃場が多くなってきている。落水期間を長めにとった間断灌水を行い、再度地固めを行う。

○今週の管理

夢しずく

- ・乳熟期～糊熟期を迎えている。
- ・水管理に重点を置き、根の活力維持と地固めを図る。

ヒノヒカリ

- ・現在、出穂期～出穂揃い期を迎えている。出穂期は8/24～27の様様。

さがびより

- ・現在、穂孕み期で、葉耳間長10～12cmとなっている（情報田）。出穂期は8/29～31の見込み。

ヒヨクモチ

- ・幼穂形成期～穂孕み期を迎えている。下位節間長 約70mm、幼穂長 約10mm（情報田）。
- ・穂肥は下記の診断結果を基に施用する。
- ・穂肥施用時は湛水し、その後の間断灌水では、地固めと根に空気を送るため落水期間を確実にとる。地が緩い場合は、落水期間をやや長めにとる。

ヒヨクモチの穂肥施肥基準（分施タイプ）

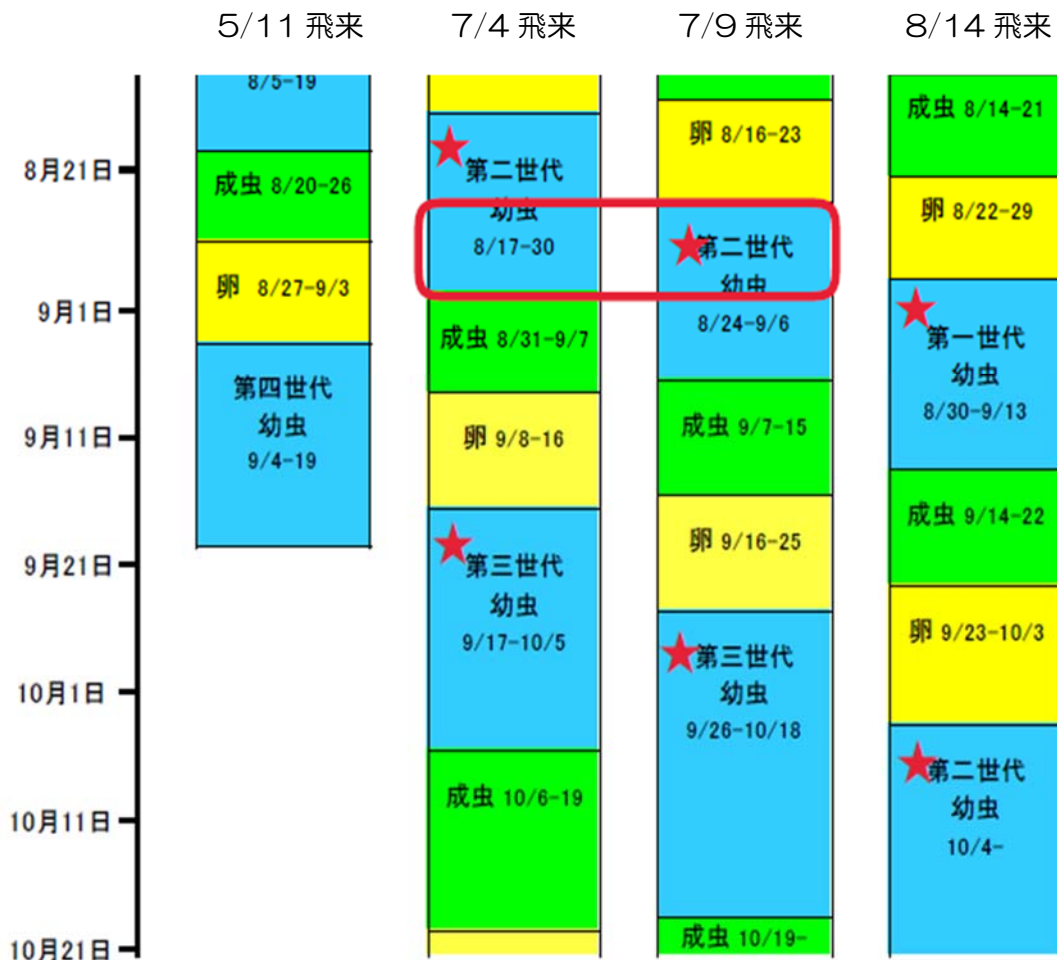
	穂肥Ⅰ(kg/10a)	穂肥Ⅱ(kg/10a)	実肥(kg/10a)
施用時期の目安	8月16～17日頃 (幼穂形成始期幼穂長1ミリ頃)	8月25～27日 (穂肥Ⅰの10日後)	穂揃期 (9月8日～10日頃)
LPBB804	40	—	—
BB602	25	10	10

※全量元肥施用田（一発くん）においても穂肥Ⅰ～Ⅱの時期にSPADで40を切る場合には、窒素成分で2kg/10a程度（BB602 10～20 kg/10a）施用する。

○病害虫情報(発生および防除)

- 今年のトビイロウンカは、4飛来(5月11日、7月4日、7月9日、8月11日:7月9日“やや多い”、8月11日“多い”)が確認されている。
- 農業技術防除センターが作成された最新発生予測図は下図のとおり(8/18発信情報 変更なし)。
- 管内のウンカ類は、8/26調査でセジロウンカ中心であるが、若齢~中老齢幼虫0.5~1.5頭/株(さがびより)が確認された。現在、7/4、7/9両飛来の幼虫期で、**防除適期(8/23~29)**となっている。引き続き、それぞれで発生状況を確認し、適期適正防除に努める。
- 防除の際は、湛水するとともに、**株元まで薬剤が十分かかるよう**、丁寧に散布する。
- 8/14飛来のトビイロウンカが被害を及ぼす時期は第二世代幼虫期と思われ、早生種「夢しずく」への影響は小さいと考えられるが、中晩生種については増殖状況によっては臨機防除が必要になってくる場合がある。(8/14飛来の幼虫期は、第一世代:8/30~9/13、第二世代:10/4~となっている)
- なおこの発生予測図は気象をもとに随時更新され、変更される場合があるため、図の下に示すホームページで最新情報を定期的に確認し、防除の参考にする。

防除効果が高い時期は、幼虫ふ化揃い期(各幼虫期の前半(図中★))である。



トビイロウンカの最新発生予測図

農業技術防除センターHP 参照:病害虫情報 <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html>

ウンカ類・コブノメイガのトラップ捕獲状況

月	日	トビイロウンカ						セジロウンカ						コブノメイガ							
		佐賀県			長崎県			佐賀県			長崎県			佐賀県			長崎県				
		佐賀市 ネット トラップ	佐賀市 ライト トラップ	嬉野市 ライト トラップ	諫早市 ライト トラップ	諫早市 ネット トラップA	諫早市 ネット トラップB	佐賀市 ネット トラップ	佐賀市 ライト トラップ	嬉野市 ライト トラップ	諫早市 ライト トラップ	諫早市 ネット トラップA	諫早市 ネット トラップB	佐賀市 フェロモン トラップA	佐賀市 フェロモン トラップB	神崎市 粘着トラ ップ(20W 蛍光灯)	伊万里市 粘着トラ ップ(20W 蛍光灯)	白石町 粘着トラ ップ(20W 蛍光灯)	武雄市 粘着トラ ップ(20W 蛍光灯)	諫早市 フェロモン トラップA	諫早市 フェロモン トラップB
7月	21日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0					0	0
	22日	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0					1	0
	23日	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	24日	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1					1	1	0
	25日	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0					0	0
	26日	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0					0	0
	27日	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	28日	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0					0	0
	29日	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0					0	0	0
	30日	0	0	0	0	0	0	18	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	31日	0	0	0	0	0	0	1	8	1	1	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8月	1日	0	0	0	0	0	0	18	3	0	0	0	0	0	0					0	0
	2日	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0					0	0	0
	3日	0	0	0	0	0	0	2	1	1	15	0	0	0	0	0	0	1	4	0	0
	4日	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0					0	0
	5日	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2	1					0	0	0
	6日	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	2	1					0	0	0
	7日	0	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	1	1					0	0	0
	8日	欠測	0	0	0	0	0	欠測	0	0	0	18	6	1	0					1	4
	9日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					3	0	0
	10日	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0					0	0
	11日	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	1	1
	12日	0	0	1	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0					1	0	0
	13日	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0					0	0	0
	14日	0	0	87	5	0	0	0	165	107	0	0	0	0	0	0	0	12	1	0	0
	15日	0	0	25	1	0	0	1	1	157	10	0	0	0	0				5	3	0
	16日	0	0	0	0	0	0	0	9	5	1	1	0	0					3	0	0
	17日	0	0		0	0	0	0		61	0	0	0	0	1	0	0	14	0	0	0
	18日	0	0		0	0	0	0	1	40	0	0	0	0					0	0	0
	19日	0	0		0	0	0	0	1	1	0	0	0	0					0	0	0
	20日	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0	1	0					2	0	0
	21日	0	欠		0	0	0	0	欠	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0
	22日	0	0		0	0	0	2	0	2	0	0	0	0					1	0	0
	23日	0			0	0	11				0	0	0	0					1	1	0
	24日																				
	25日																				
	26日																				
	27日																				
	28日																				
	29日																				
	30日																				
	31日																				

注1)ウンカ類:佐賀市のネットトラップとライトトラップ(予察灯)は、農業試験研究センターで調査。嬉野ライトトラップ(予察灯)は農業技術防除センターで調査。
注2)コブノメイガ:神崎市、白石町、伊万里市、武雄市は防除員が調査。佐賀市のフェロモントラップは農業試験研究センターで調査。
※長崎県のデータは、長崎県農林技術開発センター 環境研究部門病害虫発生予察室提供。

防除薬剤

薬 剤	希釈倍数	使用液量	使用時期	使用回数
エクシード™フロアブル	2000倍	60~150L/10a	収穫7日前まで	3回以内
トレボン乳剤	1000~2000倍	60~150L/10a	収穫14日前まで	3回以内
エミリアフロアブル	1000倍	60~150L/10a	収穫7日前まで	2回以内
スタークル液剤10	1000倍	60~150L/10a	収穫7日前まで	3回以内

◆斑点米カメムシ類

- ・8月の発生量は、やや多い予測である（農業技術防除センターの病害虫発生予察予報第4号）。
- ・耕種的な防除として、畦畔除草は出穂 10 日前までに行う。

出穂後畦畔除草を行うと水田内に斑点米カメムシ類を誘い込んで被害を助長するため、出穂 10 日前までに草刈りを済ませ、時期を逸した場合には除草しない。

- ・山麓部や河川敷付近など、例年発生が多い圃場では田廻りを励行し、防除を徹底する。
- ・防除はカメムシが穂に上ってくる夕方に行うと効果が高い。

草刈りの時期（目安）	斑点米カメムシ類の防除時期
平坦部さがびより・・・8/20頃まで	◎多発生：「穂揃い期」及び「乳熟期」の2回防除
ヒヨクモチ・・・・・・・・・・8/25頃まで	◎少発生：「乳熟期（出穂の約15日後）」1回防除

◆いもち病

- ・8月の穂いもち発生量は、並～やや多い予測となっており（農業技術防除センターの病害虫発生予察予報第4号）、山麓部や平坦で発生しやすい圃場で発生を確認している。
- ・進展型病斑がみられる圃場では早急に薬剤防除を行う。
- ・葉いもちの発生がみられる圃場は、穂ばらみ期（出穂3～5日前）を中心に防除を実施する。さらに、上位3葉に病斑が確認される場合は、穂揃い期にも薬剤防除を行う。
- ・また移植時苗いもちが確認されたところでは、現在病斑が確認できなくとも、いもち病菌は植物体上に残っているため、田廻りを励行し、初発発見→適期防除を心がける。



▲いもち病（農業技術防除センターより）

◆紋枯病

- ・今年のように生育が良好で、過繁茂状態の圃場では、一気に進展する恐れがあるため、田廻りを励行し、病斑が確認された場合は、病斑が上位葉の葉鞘に垂直進展する前にバリダシン液剤(収穫 14 日前まで)等で防除を行う。



3. 大豆管理

豪雨後も周期的な降雨で、圃場が乾かず、生育回復が鈍い地域が多い。
引き続き、圃場内滞水とならないよう排水機能の確保・整備を行いつつ、土壌環境の改善を
中心に管理する。

○生育状況

管内全域 豪雨の影響で生育量は平年より劣る。さらに豪雨後も周期的な降雨で、土壌環境改善
が図れず、樹勢の回復も鈍い。主茎が太らず徒長し、分枝の発生も少ない地域も散見される。

湿害の影響が比較的軽い地域では以下の生育となっている。

6月下旬～7月上旬播種	開花期
7月上旬中播種以降	本葉4～8葉

○中耕・培土

・播種が7月中旬以降で、葉の黄化や萎凋が少なく、樹勢の回復が望めるもの
については圃場環境が整ったら速やかに実施し、土壌環境の改善に努める。

本葉4～5枚時に、初生葉の下まで 培土を

(中耕培土によって土壌への酸素供給、新根発生促進などの効果がある)

・また播種から培土が未実施で、生育量が小さい上、生育停滞や葉の黄化が見ら
れる圃場では、開花が始まっても今後の排水対策と土壌環境改善を兼ねて
片側のみ(1条おき)の培土を試してみる。

※実施後は降雨対策に表面排水を促すため、排水口まで畝溝を繋げる。



培土の目安

○追肥:生育回復を促すため、追肥も検討する。

葉面散布による追肥 …… 尿素 1.5%液を 100ℓ/10a 施用。

濃度厳守(濃いと葉焼け症状を助長する)

固形肥料による追肥 …… 窒素成分で2～3kg/10a。ただし施用後培土がないと効果低い。

○雑草対策

・イネ科雑草が多いところでは、ポルトフロアブル、ナブ乳剤等で防除する。

・広葉雑草が多い場合は、アタックショット等で防除する。

・アサガオ類やホオズキは、繁殖力が強く、放置すると次年度以降の発生量が多くなるため、圃場内はも
とよみまから地や畦で発生している場合は、必ず抜き取り圃場外へ持ち出すか薬剤散布での防除を徹底
する。

○病害虫対策

・ハスモンヨトウ、オオタバコガなど鱗翅目幼虫の発生は、降雨の影響で“やや少ない”状況であ
るが、一部では白変葉も確認される。また浸冠水により今年見られなかった病害(葉焼病・白絹
病など)が発生してくる恐れもある。葉の食害跡や病気など新たな病徴に注意しながら圃場巡
回を行い、確認後は適正防除に努める。

ハスモンヨトウ・オオタバコガ …… プレバソン・ペガサス

シロイチモジヨトウ …… プレオ・ディアナ

葉焼病 …… 発生確認後はできるだけ圃場内への出入りを控える。バリダシン

白絹病 …… 抜き取り後圃場外持ち出しが基本。バリダシン

令和3年産水稻生育期間気象グラフ (アメダス：佐賀)

佐城農業改良普及センター

